

く、夜の social event にも趣向を凝らすことが期待されており、前日の晩には著名な寿司職人の川澄健さんによる巻きずしパフォーマンス、初日の晩は生贄のある居酒屋での fishing dinner、2 日目の晩は昨年亡くなられた藤本伊三郎先生（大阪府がん登録の創始者で IACR の名誉会員）のメモリアルイベントなどを行いました。

今回 IACR としては初の試みであり、イタリアの財団より若手研究者の口演に与えられる Enrico Anglesio 賞は、大阪府立成人病センターの伊藤ゆり先生が、恒例のポスター賞には、放射線影響研究所長崎の早田みどり先生、当センターの丸亀主任研究官・味木室長ら選ばれ、日本の独占状況となりました。

企画準備は、ほぼ 2 年前から開始し、1 年前からは毎月 IACR 理事長の Brenda Edwards 先生（米国 SEER の責任者）、事務局長の David Forman 先生（IARC, CIN 部長）らと国際電話会議で相談を重ねてきました。国内的には、IACR アジア代表理事である津熊秀明先生（大阪府立成人病センター）やプログラム委員長の田中英夫先生（愛知県がんセンター）、広報委員長の早田みどり先生（放影研・長崎）に大いにお世話になりました。募金活動においては、大島明先生（大阪府立成人病センター）、岡本直幸先生（神奈川県立がんセンター）、三上春夫先生（千葉県がんセンター）を始めとした募金委員会の先生方のご尽力に感謝申し上げます。また、非常勤職員の宍戸さん、アクセスブレインの佐竹さんの貢献度も大なるものがありました。

こここのところ、韓国、台湾に先を越され、中国に追いつかれつつある地域がん登録の世界で、日本のプレゼンスをある程度示すことができたと思います。これ

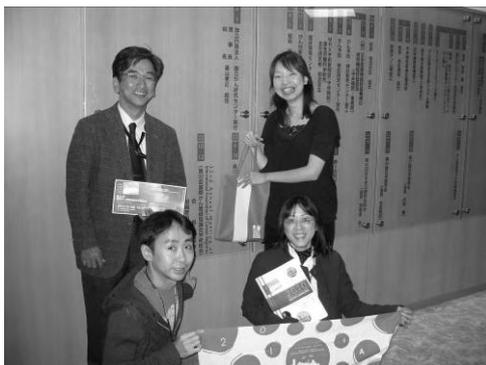
をバネとして、わが国のがん登録の体制整備を一層進めるべく、日々の活動に従事していきたいと思っております。追伸：国立がん研究センター管理棟一階特別会議室前に掲示されている「国立がんセンターの歩み」に本学術総会の一項を加えていただきました。機会があれば是非ご覧ください。

アジアがん登録ネットワーク設立会議

津熊 秀明

大阪府立成人病センター がん予防情報センター アジアがん登録ネットワーク（Asia Cancer Registry Network；ACRN）設立会議が 2010 年 10 月 14 日、第 32 回国際がん登録協議会（IACR）学術総会に引き続き、横浜赤レンガ倉庫で開催されました。国際がん研究機関（IARC）と韓国がんセンターが 2008 年 9 月に共同開催したアジアがん登録ネットワーク・サテライト会議に始まる関係者の努力とその後の討議を重ね、この日の設立会議開催に至りました。設立会議は、スラポン W 先生（タイ・コンケン大学、前 IACR アジア代表理事）、早田みどり先生（放射線影響研究所・長崎、元 IACR アジア代表理事）が議長となり、ACRN の目的・会員資格・運営方法・会費などを定める要綱の採択、事務局を担う組織の立候補・企画の提案、及び、運営委員の推挙・立候補と承認等を議題とし議事進行し、また、第 32 回 IACR 学術総会の発表の中から、アジアのがん登録の関心が特に高く、互いに理解を深める必要があると思われる 2 テーマを厳選し、チェン W 先生（中国、国立中央がん登録）と田中英夫先生（愛知県がんセンター）が座長となり、講演と討議を行いました。記録簿に基づく参加者は、アジアから 13 カ国 50 人、ヨーロッパから 3 カ国 5 人、米国 3 人の計 58 人で、記録されなかった方も含めると 60 人以上が参加し、熱心な討論がなされ盛会でした。ここでは前者の議事の概要を報告するとともに、設立総会を終えて現在進んでいる ACRN の動きについて、説明致します。地域がん登録全国協議会（JACR）会員各位及び関係者の皆様におかれましても、アジアのがん登録の相互理解と連携を強め、その発展を目指す ACRN 活動へのご参加、お力添えを賜りますよう、お願い致します。

ACRN 立ち上げの運営委員として、祖父江友孝先生



IACR2010 事務局スタッフ（右回り、祖父江、宍戸、丸亀、松田）国立がん研究センター一年表前にて、記念グッズを手に

(国立がん研究センター)とともに要綱案の作成に関わってきた津熊が、はじめに設立総会開催までの経緯を説明し、次いで要綱案を項目(1.ネットワーク構築の目的と活動の範囲、2.会員資格、3.運営委員会、4.事務局、5.地域区分、6.会費)毎に読み上げ、質疑・了承を求める形で議事を進めました。

会員資格については、参加者から多少の疑義照会もありましたが、①アジアで地域がん登録を実施している組織、または、アジア地域のがん罹患・生存率データの収集・分析に関与している機関が、共に投票権を有する正会員となり、②院内がん登録実施組織は、投票権のない準会員に、さらに③がん登録には直接従事していなくてもアジア地域のがん登録に関心のある者は、投票権のない個人会員に、それぞれなれると規定しました。入会を希望する場合は、ACRN事務局が準備する応募様式に必要事項を書き入れ、事務局に提出することとしました(要綱案を含め、入会応募様式はIACRアジア代表理事・津熊までご請求下さい<tukuma-hi@mc.pref.osaka.jp>)。

事務局については、ACRNの2年間の活動計画を提案しその遂行を支える組織とし、要綱案の採択後、設立総会で複数の応募から投票により一ヶ所に決する計画でありました。設立総会では、チェンW先生と松田智大先生(国立がん研究センター)が、企画の提案にたちましたが、設立総会に不参加の地域がん登録もあり投票権のある会員の同意が不確実であること、また、事務局を決するにはより具体的な企画書が提示・回覧されることが望ましいとの意見表明があり、事務局の決定は先送りされることになりました。なお、IACRアジア代表理事は、要綱案でACRN事務局の構成員になるとされていることから、事務局が投票により正式に決定・発足するまではアジア代表理事(インドのスワミナサンR先生と津熊)が専らその任に当たることとなります。なお会費は無料とし、ACRNの運営に必要な資金は、事務局、運営委員が調達に努めることとしました。

要綱案は、設立総会で原案通り採択され、現在IACRアジア理事兩名から設立総会参加者及びアジアのIACR会員に対し、設立総会の議事概要、事務局立候補の受付を通知するとともに、会員及び運営委員の応募様式を配布し、運営委員の承認と事務局決定の手続き・投票に向けて、進行しています。ACRNへのご参加・ご支援を宜しくお願い致します。

第19回地域がん登録全国協議会 学術集会・公開講座報告

岡本 直幸

神奈川県立がんセンター

第19回地域がん登録全国協議会(JACR)学術集会・公開講座を、平成22年10月15日(金)に横浜市の赤レンガ倉庫で開催いたしました。会員皆様のご協力により、また、学術集会事務局スタッフの皆さまの並々ならぬご協力を受けて、無事に開催することができました。

本年度は第32回国際がん登録協議会(IACR)学術総会に引き続き行いました関係で、例年とは異なった開催になり、皆様にいろいろとご不便をおかけするのではないかと案じておりましたが、多くの方々のご支援をいただき無事に開催できましたことを感謝しております。

先に述べましたように、平成22年10月12~14日に行われましたIACRの学術総会に合わせて開催した関係で、JACRの学術集会のテーマをIACRと同じ「がん登録と社会の調和」として開催させていただきました。全国から150名以上のご参加があり、活気のある会となりましたことを感謝いたします。

午前中はポスター(学術発表19題、登録室紹介26題)でのご発表をいただき、JACR臨時総会開催の後、午後からは公開講座を開催し、地域がん登録の周知と理解を深めていただくための講演会を行いました。

この公開講座では、神奈川県保健福祉局保健医療部長の中沢明紀先生、国際がん登録協議会理事長ブレンダ・K・エドワーズ先生にご挨拶をいただき、引き続きエドワーズ先生、大島明先生(大阪府立成人病センター)を座長に、国際がん研究機関がん情報部部長のデビッド・フォアマン先生から「世界におけるがんの



公開講座の座長、演者の先生方